

中項目	小項目		自己評価		学校関係者評価	今後の学校改善に向けて
			小項目評定	現況	意見、提言等	
学び合い	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分自身の良さががんばり」に気付ける取組を行い、個々の自尊感情の向上に努めた。また、学級での仲間とのつながりを深める活動を通して、互いに認め合う学級の支持的風土づくりを進めた。</li> <li>・読み優先の漢字教育に関わる研修、ICT研修などを行いながら、児童の学力向上につなげる実践を進めた。</li> <li>・校内研究「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」に関わり、読み解く力の育成を窓口に研究を行った。研究会や校内研究推進委員会をもち、学び合いや学びを深める学習について、授業改善を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観では、どの学年・教科においても創意工夫され、子どもたちも熱心に授業に取り組み、タブレット端末の活用もかなり進んでいる。</li> <li>・漢字の正しい筆順を教えているのか。テレビで見る芸能人の書き方がでたらめな状況を見逃すべきでない。正しい文章の読み書きの基本もそこにあると思われる。文学に馴染み、自然と読解力を身につけてほしい。タブレットやスマホで検索する癖がつくと文章が書けなくなる。</li> <li>・種々の取り組みがされている様だが、自尊感情の本人評価は30%強、Bを入れても60%弱であり、引き続き力を入れていただきたい。家庭の協力、理解も重要である。</li> <li>・前年の評価で、「自分はいい所がある」と思えない子どもが3分の1近くいるとあった。今年度はそういったこともなく、互いを認め合う支持的風土づくりが根付いてきているのだと感じる。</li> <li>・今後もタブレット端末の活用を。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の持ち味を互いに認め合い、一人ひとりが大切にされる支持的風土のある学級作りに努める。</li> <li>・個々の自尊感情の向上を図るための具体的な取組を計画的に進める。</li> <li>・読み解く力のさらなる育成に向けて、児童が自身の考えを話したり、書いたりと表現する力を高めるための取り組みを充実させていく。</li> <li>・情報主任と連携を図りながら、授業においてICT、特にタブレット端末の活用を進め、校内で共有を図る。</li> </ul>
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	A			
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	A			
道徳教育	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科として、道徳の教科書及びノート、デジタル教科書を活用して、週一時間の道徳の授業を確保できた。</li> <li>・作成した教材や資料を学年ごとに保存し、次年度からも共有して使用できるように進めている。</li> <li>・研修会に参加した後、研修の資料や内容をまとめた通信や職員研修で教員に発信し、指導力向上に向けて進めた。</li> <li>・11月に、全学級、道徳科の授業参観を実施し、保護者や地域に開かれた道徳教育を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から正しいと思ったことを素直に発言できる環境を作り、自己主張も大切だが、聞き上手になることを訓練する。動物、植物全ての生き物に対し、聖名を大切に思う心情を子どもたちが共有するように。</li> <li>・週1時間の道徳の授業を確保し、子どもたちの生活の中での「機会を捉えた指導」を通して、更なる定着を図っていただきたい。</li> <li>・教材や資料のデータベース化は良い取り組みだと思う。道徳以外にも拡大すれば、結果的には先生たちの負担軽減につながるのではないかと。</li> <li>・人間一人ひとり個性というものを持っている。それぞれがその違いを認め合って集団を作っていくことが子どもの成長の中で大切だと思う。</li> <li>・いじめ防止をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業の週1時間の確実な実施と、人権週間及びいじめ防止啓発月間の取組等を通して、道徳的実践力を育む。</li> <li>・作成した教材や資料を学年ごとの資料棚やデータファイルに整理し、次年度以降も共有して使っていくように整備する。</li> <li>・授業の構成や評価の仕方などについて、教師間で教材研究を行う機会をもてるようにする。</li> </ul>
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	B			
	6	保護者等への道徳科の授業公開	A			
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、水泳学習や運動会に向けての学習の取り組みを行うことができ、目標に向かって学習を進めることができた。</li> <li>・各学級担任が、体育科の授業で運動量を確保し、子どもたちが楽しんだり目標に向かって努力できる機会を設けていた。特に、持久走やなわとびなど、学習カードを用いて、意欲付けを図った。</li> <li>・運動委員会を中心に、なわとびの記録会や体力テストに向けた練習など、体を動かすことの楽しさを味わう機会づくりを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7公園でいつも10人程の子どもたちがよく集まるが、主にドッジボールや鬼ごっこが多い。ジャングルジムや滑り台は興味がなさそう。放課後の遊びながらの体力づくりに何がよいのか。</li> <li>・子どもたちの持久走や縄跳びの頑張りを耳にした。日々の練習を通して、自分の記録を伸ばそうとする姿は素晴らしい。</li> <li>・このような目標達成の直後にタイムリーに子どもたちを評価することによって、自尊感情を高めることができるのではないかと。</li> <li>・前年度はオールBで長引くコロナの影響かと心配していたが、少しずつ回復傾向にあつてよかったと思う。</li> <li>・少人数学校の良さを、いろんな場所・内容等に発揮していただきたい。</li> <li>・進んで運動に取り組めるよう工夫して続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが進んで運動できるよう、掲示物の作成や備品の用意など、安全面も考慮した上での環境整備に努める。</li> <li>・体育科の授業改善に関わる研修の機会を設け、さらなる指導力向上を図る。</li> <li>・大津市での取り組み「スポーツランキング」「OTSUスーパートライ」へのエントリー児童がさらに参加児童が増え、高め合える雰囲気生まれるよう、児童にも教員にも積極的に呼びかけていく。</li> </ul>
	8	体力づくりを推進する運動実践	A			
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	A			
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が公開授業を実施し、校内研究授業後の研究協議会の場を持つことができたため、研究授業を通して指導方法の改善や授業形態の工夫などについて話し合うことができた。講師を招いて、児童理解や指導方法についての助言をいただいた。</li> <li>・OJT研修で、各教員がタブレットを活用した学習指導の交流の場を設けたり、各々が研修会に積極的に参加し、指導力向上に努めた。</li> <li>・それぞれが見通しをもち、時間を意識しながら仕事を進めることができたので、全体的に毎日の時間外勤務を減らすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットは先生から子供への一方通行なのか。双方向で各自が考えていることを見れないのか。</li> <li>・ゆとりある先生方であつてこそ教育活動の質の改善ができるもの。更なる働き方改革に取り組み、超過勤務時間を削減していただきたい。</li> <li>・働き方改革の中でとりわけ教師の時間外勤務労働が社会の問題になっている。無理せず頑張してほしい。</li> <li>・学力向上を目指してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット等のICT機器を用いた学習活動を展開していくため、それらに関する研修や交流等を定期的実施し、児童の学習意欲向上、学力向上につなげていく必要がある。</li> <li>・本校児童の課題に即した授業改善や授業形態について、組織的・系統的な指導を進めていけるよう、共通理解を図りながら研究を進めていけるようにしたい。</li> <li>・それぞれが見通しを持ち、効率的な校務の進め方や、行事の見直し等について更に検討をしていくことで、職員の超過勤務時間を削減していく。</li> </ul>
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	A			
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B			

家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対して積極的な支援	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールとして地域からの協力・支援が積極的で、栽培活動等各学年の教育課程に位置づけながら進めることができた。今年度は新たにまちづくりについて、日吉台の歴史について、昔遊びについてなど、たくさんの地域の方にご講話いただいた。</li> <li>・地域人材活用「学習サポーター」（ひよサポ）等の取り組みについては、5年生のミシンの授業のサポートに5日間のべ19名の方の協力を得ることができた。</li> <li>・学校便りや学年通信、HP等で情報発信することができた。</li> <li>・毎日のスクールガードの方々の見守りのおかげで、登下校を安全・安心に行うことができた。防犯教室は、6月に1年、3年、5年の児童の参加という形をとって実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの声を学年別に地域に発信してはどうか。HP以外で毎月か2か月に1回でもいいので、自由テーマでも子供の生の声を聞きたい。相手にメッセージをどう伝えるかのスキルアップにもなる。</li> <li>・今年度のふれあい農園さんとの栽培活動は順調にスタートでき、子どもへのきめ細やかな支援活動ができた。</li> <li>・ふれあい農園やスクールガードでは地域人材の高齢化で、5年、10年先に不安がある。地域はもとより、行政や学校とも連携した取り組みが必要だと思う。夢プロで子どもたちの意識の中に、地域への思いが入っていたのがよかった。</li> <li>・学校、地域のイベントの共有化、受入窓口、気楽に相談できる関係になれば。「学校側、地域団体とも」特に地域自治会等の担当窓口がいるかも。</li> <li>・保護者同士の意見交換の場は、日頃思っている子どものことやそれ以外のことも話すうちに気持ちやすっきりすることもあるのでいいのでは。</li> <li>・人との出会いを通し、学ぶ体験活動を推進してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の子育てに対する支援については、学校はもとより、SCや教育支援センターなど、保護者が気軽に相談できるようつなげていきたい。</li> <li>・来年度も、教育課程の中に、地域人材を有効活用する指導計画を位置づけ、学年の実態に合わせて効果的な実践を行う。（防犯教室・人権学習・総合学習・生活科等）</li> <li>・学校と地域とが協賛する行事を年間行事予定に位置づける。人との出会いを通して学ぶ体験活動を推進する。</li> <li>・学校だより、学年通信等の発行に加え、HPの更新を定期的に行うことで充実させ、学校の取組を保護者・地域に伝える。</li> <li>・地震等の避難訓練や各学年の学級指導において、防災教育の持ち方を工夫していきたい。</li> <li>・防犯教室については、全校児童の参加が難しい場合は、例年1年、3年、5年児童の参加という形を固定していく。</li> </ul>
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A			
	15	防災・防犯教育の推進と、安心・安全な学校づくり	A			
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小連絡会議などを通して、児童の情報共有に努めると共に、気になる児童については、個別に保幼の教員と連携して、児童が学校生活に慣れ、安心して過ごせるようにすることができた。</li> <li>・小中連絡会を通して、年度初めに出前授業をしていただき、中学校進学に向けた講話をしていただいた。また、入学説明会や入学直前の出前授業などの調整を行い、6年生児童が安心して中学校へ進学できるよう業務を進めることを確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナをあまり気にせず、地域の祭りや文化祭に積極的に参加してほしい。学校も運動会もオープンにしてほしい。</li> <li>・坂本幼稚園や地域の至明こども園との交流をさらに進めてほしい。</li> <li>・地域の連携を大切に。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も秋祭りなどを通して、地域の保幼小連携を進めていく。</li> <li>・小中連携も、年間通じて連携をとり、児童のスムーズな中学校進学を支援する。</li> </ul>
	17	校種間の授業公開や合同研修会	A			
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	B			
生徒指導	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見、生徒指導上の課題に関わって、報告、連絡、相談を行い、早い段階での組織対応を行った。</li> <li>・一ヶ月に一回「キラキラさんチェック」という児童アンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応を行った。</li> <li>・スクールカウンセラー来校時には、児童の相談や保護者との個別面談を実施した。スクールカウンセラーとの連携により、児童や保護者への対応の仕方についての理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に学校指導要領をこなす以上に、子どもに目配りをする余裕があるだろうか。残務処理に追われていないか。教員ときちんと対話できているか。児童数が少ないことを、家庭、地域、学校が協力して子供たち一人一人に目を届かせることができる長所にしたい。</li> <li>・少人数学校の利点を生かし、学校、家庭、地域の3者が密に連絡を取りながら、子どもたち一人一人を見守ってほしい。</li> <li>・いじめ早期発見。小さいことでも見逃さないで。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の職員打ち合わせや、毎月の児童アンケート、教育相談において、全職員の情報共有を図り、児童理解を深める。</li> <li>・児童の気になる行動や言動を見逃さず、適時、個別面談やケース会議を設定し、指導支援の方向性を検討する。</li> <li>・「報告、連絡、相談」を密にし、職員間における情報共有を図り、組織的な対応を進めていく。</li> <li>・「日吉台っ子の約束」を毎月の生活目標に掲げ、児童の学校生活の中に位置づけ、よりよい学校生活がおくれるよう指導していく。</li> <li>・今後もスクールカウンセラーと連携し、児童の対応、保護者への対応を実施していきたい。</li> </ul>
	20	生徒指導・教育相談体制を確立と組織的な推進	A			
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	A			
特別支援教育	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに、個別の指導計画の作成を保護者と確認をして、1学期から指導計画を活用して児童と関わることができた。</li> <li>・特別支援に関する校内委員会を学期ごとに開いて、児童にとっての適切な指導の仕方や特別支援学級の入退級に関することなどを詳細に話し合い、学校全体または複数の教員で共有することができた。</li> <li>・教育支援センターをはじめ、巡回相談や就学相談の制度を使い、学校だけではなく、関係機関と連携して児童の支援方法を探ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとの目標を、保護者と到達状況を共有する。中学入学までに、どこまでを目標にしているのか。</li> <li>・子どもの課題や成長に向けての共通理解が必要。そのためには、学校と家庭との良好な関係を築くことが大切となってくる。</li> <li>・小規模校の特徴を生かし、常に全校の児童を見てほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画をさらに活用して、教員間で指導方法の共有を図ったり、保護者と有効な手立てを共有したりできるようにする。</li> <li>・担任している児童だけでなく、学校全体の児童を全教員で見えていく姿勢を持つ。</li> <li>・教育関係機関と連携をさらに密にし、児童への指導・支援のあり方についてしっかりと検討を重ねていく。また、保護者ともしっかりと連携をとりつつ、児童の実態に即した形で関係機関へ繋ぐ。</li> </ul>
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A			
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	A			

満足	25	児童生徒の学校満足度	<p>A</p> <p>・「学校が楽しい」という質問に肯定的な回答をした子どもたちが90%いるということは、学校としては大変意味深いことである。しかしながら、昨年度と比べて、5%減少している。減少に至った原因は何か、クラス替えがない本校の現状から、友達関係がこじれて楽しくないと答える児童は少ないと考えられる。その原因を追究して、児童が安心して楽しい学校生活を送れるよう、教師はいつもアンテナを張り巡らせる必要がある。</p>	<p>・学校の楽しさは何か。子どもによって違うが、違っていいということを確認合う。・「学校生活が楽しい」という子どもが多いことは素晴らしい。さらに高めようとするならば、一人ひとりを認め合う学級集団作りを大切にしたい。・少人数学級でクラス替えもないだけに、肯定的な回答以外、残り10%の子どもたちに、より一層のケアを願う。・これからもみんなが楽しい学校生活ができるように、100%をめざして。</p>	<p>・他者を認め、自分も大切にするような自尊感情を高める指導に力を注ぐ。      ・毎月行うキラキラさんチェックから、気になる子どもの記載に目を付け、欠かさず声掛けをする。      ・友達と協力して成し遂げた喜びや、一緒に活動した楽しさを味わえるような活動を積極的に取り入れる。      ・分かる楽しさ、認められる喜びが感じられる授業を展開する。</p>
----	----	------------	---	---	---